【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第３区分
【発行日】平成23年4月7日(2011.4.7)

【公開番号】特開2009-32106(P2009-32106A)
【公開日】平成21年2月12日(2009.2.12)
【年通号数】公開・登録公報2009-006
【出願番号】特願2007-196529(P2007-196529)
【国際特許分類】
Ｇ０７Ｆ　13/00　　(2006.01)
Ｂ６７Ｄ　 3/00　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０７Ｆ　13/00　　１０１
Ｂ６７Ｄ　 3/00　　Ｈ

【手続補正書】
【提出日】平成23年2月18日(2011.2.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００５２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００５２】
高温沸き上げ中、高温設定ＳＷ１０４の押下があった場合には高温沸き上げ動作を中止する。また、沸き上げ後、温水ヒータ４２に対する給電をＯＦＦ状態にし、再度、高温設定ＳＷ１０４の押下があった場合、所定温度として既述の高温度である９３〔℃〕まで沸き上げる。この場合、温水温度が９３〔℃〕未満、９０〔℃〕以上の場合でも、高温表示部１１６の橙色点灯とする。また、沸き上げ後、適温範囲（９０〔℃〕）未満で８５〔℃〕以上の場合には、通常温度表示部１１４を緑色点灯させ、８５〔℃〕の適温範囲であることを表示する。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６４】
タイマー／時計ＳＷ９８が押下されると、表示部８８がタイマー表示となる。時計表示では、時、分だが、タイマー表示は、分、秒となる。この場合、初期設定は、３．００である。タイマー時間の最大は例えば、６０〔分〕であり、タイマー表示（待機）中、加算ＳＷ９０、減算ＳＷ９２を押下することにより、分表示が変更される。加算ＳＷ９０を押下すると、3 →3.30→4 →4.30→5 →・・・10→11となり、以降は連続的に最長時間として例えば、最大６０〔分〕まで変わり、時計と同様である。また、減算ＳＷ９２を押下すると、3 →2.30→2 →1.30→1 →0.30→00となる。スタート／ストップＳＷ１００を押下すると、タイマー８４がカウントダウンする。カウントダウン中でも、加算ＳＷ９０、減算ＳＷ９２を押下することで分表示の変更が可能である。タイマー８４が 0：00に移行したとき、ブザー８５を所定時間例えば、１０秒間鳴動させる。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００８９
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００８９】
ところで、ステップＳ１１０において、冷水側省エネ終了準備時間が経過していれば、冷水設定温度が８〔℃〕であるか否かを判定し（ステップＳ１１９）、冷水設定温度が８〔℃〕であれば、冷水温度ＴＨｃが９〔℃〕を超えているか否かを判定し（ステップＳ１２０）、冷水温度が９〔℃〕を超えていれば、冷却中であるか否かを判定し（ステップＳ１２１）、冷却中でなければ冷却停止後、５分以上が経過しているか否かを判定し（ステップＳ１２２）、冷却停止後５分以上が経過していれば、冷却を開始し（ステップＳ１２３）、ステップＳ１（図６）に戻る。